

温州ミカン栽培での肥効調節型肥料を用いた年 1 回施肥

[要約] 赤黄色土での高畝栽培における「原口早生」に対して、肥効調節型肥料を化成肥料とブレンドして施用すると、11月の年 1 回施肥でも、慣行施肥と同等の肥効が得られる。

長崎県果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	------	----	-----	----	----

資料名：平成 10 年度長崎県果樹試験場試験成績書

[背景・ねらい]

温州ミカン園における施肥の省力化を図るため、肥効調節型肥料に化成肥料（リン硝安加里）をブレンドした年 1 回施肥が樹体及び土壌へ及ぼす影響について調査した。比較を行った施肥法は下記のとおりである。対象系統は「原口早生」で、マルチ被覆は透水性シートを用いて、8月上旬～11月上旬に行った。

処理及び施肥割合

処 理	秋肥(11月7日)		春肥(4月11日)		年間窒素 施用量	
	化 肥	成 料	ロン グ 100	ロン グ 140		化 肥
対照区	60%				40%	58gN/本
ロング 100 区	40%		60%			58gN/本
ロング 140 区	40%			60%		58gN/本

[成果の内容・特徴]

- ① 土壌中の無機態窒素含量は、露地・マルチとも 12 月に高い値を示し、その後減少する。肥効調節型肥料区と対照区の間には差はない。
- ② 露地での葉中窒素含有率は、肥効調節型肥料区では 3 月まで差が認められないが、5 月以降は肥効調節型肥料区が高く推移する（図 1）。
- ③ マルチでの葉中窒素含有率は 5 月以降、ロング 100 区で対照区よりもやや高く推移する（図 2）。
- ③ 果実品質において、露地では肥効調節型肥料区と対照区との間に差は少ないが、マルチでは肥効調節型肥料区が糖度、酸含量ともに高い値を示す（表 1）。
- ④ 以上のとおり、肥効調節型肥料を用いた秋 1 回施肥は、通常の施肥と比べて樹体及び果実品質に及ぼす影響に大きな違いが見られない。従って、100～140 日のタイプの肥効調節型肥料を用いた秋 1 回施肥は、省力化の面で効果がある。

[成果の活用面・留意点]

- ① 肥効調節型肥料の溶出タイプの明確な選定が必要である。

[具体的データ]

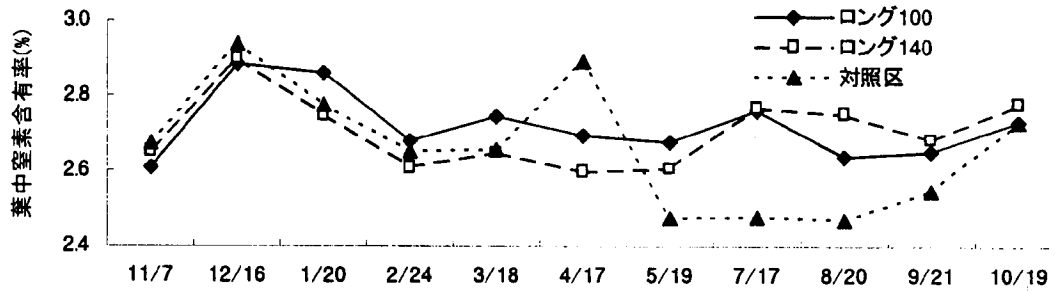


図1 露地での葉中窒素含有率の推移(1997~1998年)

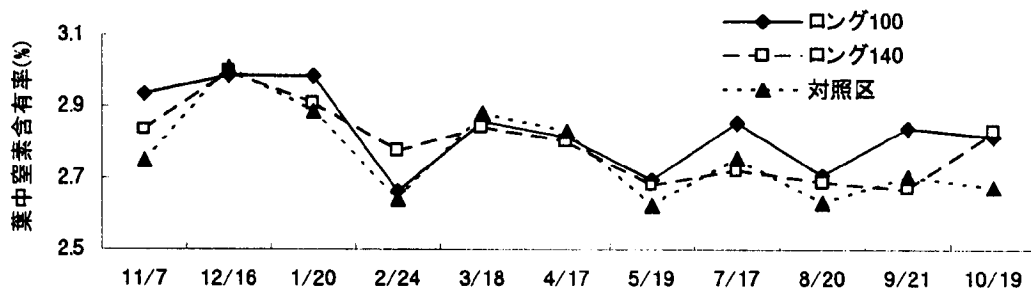


図2 マルチでの葉中窒素含有率の推移(1997~1998年)

表1 果実品質 (1998.11)

処 理 区		1果重 (g)	着 色	糖 度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
露地	ロング100区	134.5	4.4	10.7	0.89
	ロング140区	134.4	3.9	10.4	0.88
	対照区	117.7	3.8	10.2	0.88
マルチ	ロング100区	131.0	5.7	13.0	1.23
	ロング140区	106.7	5.5	12.6	1.24
	対照区	112.1	5.5	12.3	1.12

果樹試作成カラーチャート値

研究課題名：傾斜地カンキツ園における軽労働・省力機械化生産体系の構築

予 算 区 分：国庫（地域基幹）

研究期間：平成10年度（平成6年～10年）

研究担当者：宮路崇生 中里一郎

発表論文等：なし